神奈川県議会議員 西村くにこ

# 県政報告

発行：2024年11月

［プロフィール］2011年神奈川県議会（川崎区）に初当選。現在、４期目。防災警察常任委員会／予算委員会／公明党神奈川県議団副団長／社会福祉法人川崎いのちの電話評議員／防災士／骨髄バンクドナー登録説明員／認知症サポーターキャラバンメイト／こころサポーター（メンタルヘルス普及促進）／心のバリアフリー推進員（障害者理解促進）／保護司



ホームページ
http:// 西村くにこ .com/
Facebook
https://www.facebook.com/nishimura.kuniko

▲ホームページ　▲ Facebook

## リトルベビー支える環境づくりを目指して　神奈川県議会報告

# ママと県が協定締結！？

２０２４年１０月３０日、神奈川県は、リトルベビー（低出生体重児）とそのご家族が安心して子育てができ、健やかに成長できる社会環境づくりを図るため、リトルベビーママが立ち上げたＮＰＯ法人pena（ペナ）と協定を締結しました。

## 10人に1人がリトルベビー

リトルベビーとは、生まれた時の体重が２,５００グラム未満の赤ちゃんを指します。日本に生まれる赤ちゃんの１０人に１人がリトルベビーです。体重がより小さな赤ちゃんは、発育や発達の遅れなどのリスクが大きいとされることから、多くの親が不安を感じながら子育てをしています。

２０２１年、リトルベビーのお母さん坂上彩さん（現 pena 理事長）との出会いから、私は、小さな赤ちゃんのための母子健康手帳「リトルベビーハンドブック」を県で作成。当時、少人数でスタートしたサークル pena も、孤立しがちだったリトルベビーママたちの輪が広がり、ＮＰＯ法人として活動するまでになりました。

今回の協定では、①リトルベビーへの理解を深める普及啓発や、②リトルベビーを支える環境づくり、③その他、リトルベビーやその家族の支援に関することについて連携・協力をしていきます。

まず、第１弾の具体的な取組として「誰もが安心して搾乳ができる環境づくり」を推進していきます。

## 搾乳（さくにゅう）とは!?

出産した女性の中には、様々な理由から自分で母乳を搾る、いわゆる「搾乳」を行わなければならない場合があります。入院中の赤ちゃんのために搾乳して母乳を届ける必要のある方や、授乳期間に職場復帰された女性も３時間おきの搾乳が必要で、母乳の分泌量を保つことができるだけでなく、乳房内に乳汁を溜まったままにしておくと、乳腺炎や乳腺潰瘍に移行するリスクも高まります。しかし実際、リトルベビーママたちが搾乳の目的で、一人で授乳室に入ると「どうして？」「何をしている？」と好奇な目にさらされ、時には出ていくよう叱責されたこともあったそうです。必要な方々が安心して搾乳ができるよう、社会全体で搾乳に対する知識・理解を深めるとともに、環境を整えていくことが重要です。

１０月３１日、イオンモール株式会社及び株式会社横浜インポートマートの御協力のもと、黒岩知事と Pena の坂上理事長が横浜ワールドポーターズの授乳室の案内板に搾乳シンボルマークの掲示が行われました。この搾乳ができることを示すシンボルマークは、県と pena が連携して作成したものです。今後、公共施設、商業施設等の授乳室等に掲示して活用いただくことで、搾乳に関する理解を促進したいと考えています。

１１月１７日は「世界早産児デー」。１６、１７日と「あーすぷらざ（ＪＲ根岸線　本郷台駅）」早産児やリトルベビーのためのイベントが開催されます。どうぞ、お運びください。



pena の皆さん、黒岩知事と

